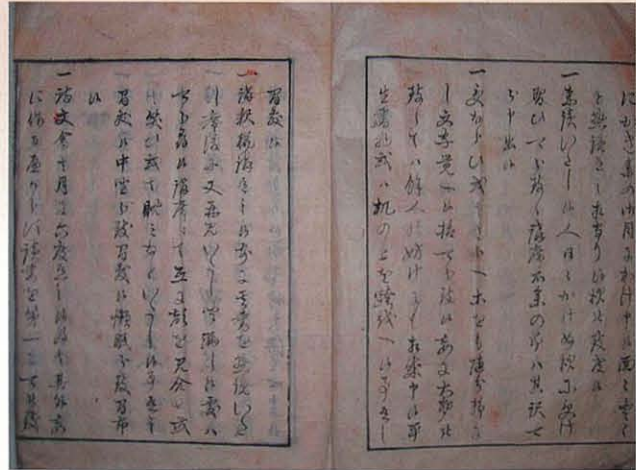


博物館 アラカルト 14

●学問をする人の心得

黄葉夕陽村舎（後に廉塾）は、天明年間（1781～89）の初め頃に菅茶山が備後国神辺に開いた塾です。当初は寺子屋のような塾であったようですが、茶山の詩人としての名声が高まるにつれ全国から塾生が集まり、寄宿をしながら学びました。

廉塾に伝わった資料の中に『廉塾規約』と呼ばれる38箇条に及ぶ決まりの覚書があります。これを読んでみると、現在の私たちが学ぼうえでも参考になる内容だといえます。



最初に、

読書をする人たちが自分の身を正すことは当たり前なので、今までは規則を定めることはなかったが、塾生も入れ替わっていろいろな決まりごとを知らない生徒も増えたため、ここにまとめて書き上げるので、よく守るように。

と記しています。その他の「規約」の中から、今でも通じる次の6条を紹介したいと思います。

- (1) 学習は毎日欠かさないようにしなさい。無断欠席はいけませんよ。
- (2) 受け習いは静かにして文字を覚えなさい。大声を出せば他人の迷惑になる。書物や机の上をまたいではいけません。
- (3) 授業の前に予習をし、授業の後には復習をすること。また、わからないところは、質問をするように。
- (4) 年長者は年下のものをいたわり、行儀作法なども教えなさい。いじめなどしてはいけません。
- (5) 毎日掃除をして、月二回は大掃除とともに文房具や身の回りの道具を整理しなさい。
- (6) 至急の場合以外は走ってはいけません。

どうでしょうか？ 今の私たちが学ぶ時にも十分通用すると思いませんか？ 後半の3つは生活態度などについてですが、私たちも学校で、家庭で一度は言われた記憶があるはずです。

菅茶山の塾は儒学を学ぶ塾ですから、**人の道**について学びます。学問は読書（儒教の本から学ぶ）だけではなく、その学んだことがあらわれる日常生活あるいは社会生活も含めての学問なんですね。

本当に役立つ学問は、そういうところにあるんだよ。と茶山は言っているのです。

（主任学芸員 岡野将士）